

「京の稲作と農地を守るアクションプラン  
～米政策改革(H30)を見据え、マーケットやニーズを起点とした新たな戦略～」  
平成29年度検討会議 議事概要

1 日 時 平成29年8月29日(火) 14:00～15:55

2 場 所 ルビノ京都堀川 2階 「ひえいの間」

### 3 議 事

#### (1) アクションプランを踏まえた平成29年度の予算及び事業進捗状況

##### <マーケットデータ活用型「京の米」等の農産物需要創造事業費>

- ビックデータ収集の調査対象者は、府内か全国か。府内と全国でデータを分けたらどうか。データ収集期間は、新米が市場で動いている12月までとしてはどうか。  
→ 調査対象者は全国。収集期間は、業者が決まり次第、検討していきたい。
- SNSは若者しか利用しない。年輩の人がよく米を食べるので、合わせて紙媒体で調査を行ってはどうか。
- 収集したデータは、大学、研究機関等、誰でも活用できるように公開してはどうか。

##### <京都版ふるさとCSA支援事業費>

- できたばかりの事業であり、これから一緒にすすめていく事業。
- 2年前からCSAの取組を行っており、263名が田んぼオーナーになっている。皆、自分たちが町の農地を守っているという意識があり、移住希望の人も出てきている。地域の農地を守るために外部の力は大切であり、CSAは府においても力を入れるべき。

##### <「京の米」オリジナル品種開発事業費>

- 目標とする早生品種の収穫時期は、8月下旬～9月上旬とのことだが、8月中旬頃に早めることはできないのか。
- 田植え時期や地域での水管理の関係もあり、府内における8月中旬収穫の品種は難しいのではないかと。  
→ 現在、選抜している候補品種の中には、収穫時期が8月中旬までの早い品種がない。現場では、コシヒカリに代わる早生・良食味・耐暑性の品種に対する要望が強い。

##### <「京の米」6次産業化事業費>

- 京都米の需要喚起には、府内の企業や団体等の社員食堂等への提案も必要。

#### (2) 協議事項：地場産業と結びついた米の生産を拡大するための課題と対応策

##### <加工用米「京の輝き」について>

- 平成29年産は作付けが伸びず、需要数量を充足できない状況。
- 所得面を考慮し、「京の輝き」を「コシヒカリ」に代えようか、という生産者の声が多

い。

- 3年間の複数年契約が切れた機会に作付けをやめる農家が多い。栽培しやすく労力もあまりかからない点は良いが、30年以降は他産地の安価な米が流入し、実需者からの要望数量が減るのではないかと不安。
- 年々要望需要が高まっている。農家所得との兼ね合いはあるが、要望数量を確保できるようにしたい。
- 米づくりに参加した消費者の元にお酒が届く等、CSAと関連した取組を行ってはどうか。

#### <その他の地場産業と結びついた米について>

- 寿司屋向けの米については、余った時のリスクを考え、専用品種ではなく在庫米をブレンドして対応している。
- 今年「大粒ダイヤ」の栽培試験に取り組んでいる。価格が安くても多収で所得確保するという考え方もある。
- 府としても、京都の地場産業の需要は大切にしていきたい。

### (3) 意見交換

- 卸売業者から新品種を紹介される機会が多くなった。全国で新品種が増える中で、京都府も勝ち残らないといけない。
- 食べやすい「おかゆ」や、缶入りの米等に海外では需要がある。
- 少量包装の米（有機栽培米900g包装）のオーダーがある。このような需要を自分達の売り方に反映していきたい。
- 中食、外食需要が3割を占める中、主食用米の高値誘導により需要が減るのは残念だ。
- 少量包装の米需要をターゲットにしていくことも必要。10年先を見据えたマーケティングが必要。
- 京の米のPRとして、水稻苗をおしゃれな観葉植物にした「インテリア用の米」を考えてみてはどうか。

### 【小括】

- 水田農業については、生産・流通・加工・消費まで一体的な検討が必要。生産者と消費者等、様々な人を具体的に結びつける事業が不足している。府単独でなく、関係機関が密に連携し、進めていって欲しい。